

一主婦からの新発田市政通信

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）
新発田市御幸町 3-1-21
TEL 0254-26-8334

平成 26 年 3 月 18 日 第 18 号

1 新図書館横に建設予定の民間棟の進捗状況

市民の皆様は駅前複合施設（図書館を含む）の完成図を既に広報でご覧になったことと思います。この駅前複合施設完成予定図向かって右には、複合施設の半分を隠してしまうような 6 階建ての民間棟が建設予定になっています。1 階には、市の観光案内所、物産店、生鮮食料品店が、2 階にはテナントが、3 階から 6 階までは単身者用賃貸マンションが入る予定として計画が進められています。

3 月 4 日に開催された総務常任委員会において、議員からその民間棟の建設計画の進捗状況についての質問がありました。市もその民間棟に補助金を出す事になっていながら、その内容は市民に殆ど説明されていない現状のなかでの質問でした。その結果、民間棟に入る予定のテナントの交渉、賃貸マンションの検証が完了していないとの事で、未だ基本設計が出来ていない状況であることがわかりました。しかし、既に実施設計に入る行政棟と同時期にオープンする予定である事、また賃貸マンション利用者は各自で駐車場を確保しなければならない事もわかりました。

学生がこの賃貸マンションを借りるとするなら駐車場料金が別に発生する事になるのでしょうか。図書館駐車場も不十分な状況の中、この事は当初から予想でき、私の通信でも述べていました。事前に詳細なヒヤリングを行い、確かな需要を見込んで計画を立案すべきにもかかわらず、その検証をせず、このような状況を招いているのは、場当たりのなまちづくりの発想のもと、甘い組み立ての当初予算 22 億 5 千万円が約 33 億円に上昇した原因と同様に、拙速に計画を進めて来た結果です。

駅前複合施設の完成図のみが華々しく大々的に公表されました。図書館を含む複合施設（行政棟）の半分を覆い隠すような民間棟が建設された時、市民の皆様はどのように感じられるでしょうか。

2 市長の思いのままの街づくり

今年度、二階堂市長は部長制を廃止しました。そして市長直属の政策調整監 5 名を任命し、市長部局にあたる企画政策課を設置したのです。政策調整監は市長のもと政策を決定します。その政策を実行に移すのが企画政策課です。この課は設置されると同時に駅前複合施設建設計画を進めてきました。今度は、この課で食の循環によるまちづくり推進事業を始めたのです（食育や観光、まちづくりの政策を実行する課は他にもあります）。二階堂市長は、市長になる前から観光施策の主導権を市長部局に置きたいとの意向があったとのこと。企画政策課は、市政全ての事に関し、市長が意図する事を、各課を通すことなく短期間で推し進めることができる課であると理解しています。市長は、これまで以上に思いついた事を、思いのままに実行に移す事ができるようになったのです。

来年度から職員の評価法が変わり、これまで行って来なかった 5 段階評価が行われ、55 歳以上の昇給はその評価で決まるようです。

今年度は市職員 17 人の早期退職者が出ていると聞いています。今後は、今の市政についていけない職員は淘汰されるのでしょうか。

職員や市民から評価されるのは、二期目の出馬を表明した市長自身です。市長評価となる今年 11 月実施予定の市長選挙が無投票選挙になる事だけは避けたいものです。

3 東日本大震災後の復興のあり方に学ぶ

3 月 8 日の NHK テレビで東日本大震災後の復興のあり方を問う番組がありました。震災後の東北各地では、震災から 3 年経ち復興計画が進む中、人口減少が続いていることの原因を検証する番組でした。

岩手県大槌町では、津波防止の為に 14 メートル以上の防潮堤が建設されると海が見えず、潮の香りがしない町となり、町の良さが失われてしまうので計画を変更して欲しいとする住民の要望があるにも関わらず、防潮堤を見直すと交付金にも期限があり、他の計画にも影響し復興が遅れるとし、そのまま計画を進めているそうです。一方、宮城県女川町では、防潮堤を作らない町づくりを基本とし、あく迄も住民の要望に応えた街づくりをする為に、何度も住民との意見交換の場をもち、その都度、人口減少にあわせた計画の縮小化や見直しをしているとのことでした。

この番組で心に残った言葉がありました。①復興計画を進めるためには女性の意見に耳を傾けることが大切である、②住民に評価されない復興は何の為に復興か、復興計画が遅れたとしても住民に評価されるものにしたい、③将来に引き継がれないような復興であってはならない等の言葉です。大槌町と女川町のどちらが将来を見据えた町づくりでしょうか。どちらの町が将来的に住もうと思う住民が増えるのでしょうか。この事は新発田市の街づくりのあり方にも通じることだと思います。

新発田市では、街づくりが行政主導により拙速に進み、街のあちこちで工事が行われています。その結果、中心市街地の様子が短期間で大きく変わろうとしています。私はこの状況に目を覆いたくなります。女川町の街づくりに学び、住民の声に耳を傾け、計画変更も視野に入れ、時間をかけたまちづくりをして欲しいと切に願います。今のようなまちづくりでは、住みたいと思うまちになり得ず、人口 10 万人を切った新発田市の人口が元に戻るとは思えません。

（あとがき）

経済至上主義を掲げる日本に未来は無いと警告する経済学者がいます。新発田市は、福島原発の汚染水処理や廃炉作業という負の遺産を抱えて未来が見えなくなっている国の交付金に依存し、新庁舎と駅前複合施設建設を来年度から始めます。この巨大プロジェクトが後に新発田市の負の遺産にならないことを願います。